

うたかた

デザイン学科
上田風子

UTAKATA

Department of Design
UEDA Fuco

本作品は、個人的な記憶や夢を通して浮かび上がってくる多次元の風景をテーマに制作された。

元になった風景はどれも実在するものである。実在する空間や風景を意識的に取り入れた作品は、初期作品でもある「学校シリーズ」（1999～2000年）以来であり、約20年を経て原点を再確認する制作となった。

元の風景として「幼少期の風景」「故郷の風景」「身近な風景」「下北半島の秘境の風景」を下地とし、個人的な記憶や夢から浮かび上がる重層的なイメージを重ね合わせ解体し再構成することにより、どこか幽玄としたここではない場所を浮かび上がらせている。

そこには記憶や夢に付随するイメージの一要素として、藤田嗣治、バルテュス、ベックリン、ピナ・パウシュらのいくつかの作品もオマージュとして配置されている。

「現実の風景」そのものの描写ではなく、主観性を持った「記憶や夢の風景」を重層的に重ね合わせることで幽かに現れる「うたかたの風景」を表現した。













